

MAP 1 住民の力で開設された北浦和駅

北浦和駅は住民が針ヶ谷の三山を拓き、学校用地を造成し、湿地を耕作地にかえた費用で昭和11年(1936)に開設されました。やがて、駅の名は町名となりました。

翌年には旧制浦和中学校(現県立浦和高等学校)が領家に移転し、生徒に利便をもたらしました。

文教都市浦和の礎を築く上でも北浦和駅の開設は重要な要素だったと思われます。



▲福信一穂筆 北浦和駅が出来た頃のスケッチ



▲東口の北浦和インフォメーションセンターには、市民の窓口、ワークステーションさいたまがあります

MAP 2 牛頭天王に願う厄除退散 天王川コミュニティ緑道

MAP 3 天王川遊歩道

天王川コミュニティ緑道は、水路を暗渠にした遊歩道です。「領家二丁目公園」から「元町通り」間の全長510メートルは水と緑をテーマとした散策路として、近隣のオアシスとなっています。

その昔は針のように細長い谷間から流れ出る小川で、高台に初夏の疫病を牛頭天王の神力で封じる天王社があったことに由来します。



▲緑道の様子

column

MAP A 針ヶ谷三山(三郎山・稲荷山・天王山)と天神山

天王川遊歩道の西側に、針ヶ谷三山と称される三郎山・稲荷山・天王山という3つの山がありました。

三郎山は、浦和郷一万石の代官中村弥右衛門耐吉照の陣屋がありました。徳川家康は江戸入部後、高力清長を二万石の岩槻城主とし、同時に浦和郷一万石を預け地としました。清長は家臣の吉照に浦和郷の支配を命じました。また、吉照は旧主高力清長の冥福を祈るため廓信寺を建立しました。

稲荷山は、妻恋稲荷山とも呼ばれ、村の鎮守の妻恋稲荷が祀られた、小高い松の山で非常に景色の良いところでした。

天王山は、大木が生い茂り昼なお暗く未開の原生林を思わせる神秘的な高台でした。近くを流れる天王川は、夏に流行る疫病を封じる「牛頭天王社」がその名前の由来とされ、この天王山も同様と考えられます。

後に幕府代官となった中村吉照は、針ヶ谷村の新田開発にも力を入れ、慶長十一年(1606)には天神社(天満宮)を勧請し針ヶ谷村の鎮守としました。その地が天神山です。

また、天神山に鎮座する針ヶ谷三社のうち、稲荷は稲荷山にあったとされています。

MAP 4 金時イモの原点 紅赤発祥の地



廓信寺の参道入口に紅赤の発祥地という解説板があります。この周辺こそ山田いちが紅赤を発見した場所です。いちが家業の傍ら畑仕事に励み、明治31年(1898)さつま芋の新種を発見し、その普及に努め、後世、全国の七割が「紅赤」で占められるほどになりました。

その功績により、昭和6年(1931)には、女性では初めて「富民賞」を受賞しました。紅赤はキントキとも呼ばれ、世界一うまい芋として親しまれています。

北浦和 界隈を 歩く

約3.2km ~4.1km

JR北浦和駅を起点に、昭和初期の住民による街づくりが進められた地区を散策します。中山道を背骨とし、基盤の目のように整備された道と、穏やかな住宅街に点在する史跡や公園を散策します。緑の中で健康を増進するコースです。
初版発行日…平成19年(2007)3月
編集・発行…浦和区文化の小径づくり推進委員会



1

2

3

MAP 5 中村代官ゆかりの古刹 廓信寺

慶長年間、岩附城主高力清長の家臣中村弥右衛門耐吉照が建立しました。本尊の木造阿弥陀如来坐像は鎌倉時代のものです。大坂城よりもたらされたものです。

三門の仁王像は吉照・吉繁の寄進です。門前の紅白梅は3月にみごとに花を咲かせます。



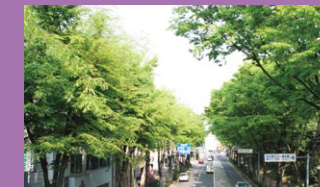
▲廓信寺三門

column

MAP B 日本一長い ケヤキ並木

北浦和駅西口から国道17号線を越えると、所沢までのおよそ17kmの沿道に約2,400本のケヤキが植えられ、緑のアーケードがつくられています。

西口界隈は、北浦和公園とケヤキ並木に彩られた四季を感じさせます。



▲埼玉通りの様子

MAP C サッカーのまち浦和

浦和は埼玉サッカー発祥の地。全国優勝した学校も多く、サッカーのまち浦和として古い歴史があります。

北浦和駅東口界隈には、浦和レッズ歴代名選手の足型などもあり、サッカーに親しむ文化が根付いているのを感じさせてくれます。



▲レディア像



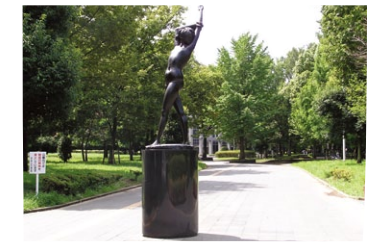
▲県立近代美術館

MAP 6 文化の香り際立つ 県立近代美術館

県立近代美術館は北浦和公園の一角にあり、昭和57年(1982)に開館しました。

浦和ゆかりの画家寺内萬治郎や前衛的な作品で知られる瑛九(杉田秀夫)をはじめモネ、ルノアール、ルオー等の作品も収蔵しています。

公園内には彫刻の広場、野外ステージ等があり、噴水池では音楽と噴水によるオーケストラ(2時間おきに10分間)が見られます。



▲北浦和公園

MAP 7 壮んなるかな旧制浦和高校跡 浦和北公園

浦和北公園は市営の公園で、昭和47年(1972)に開園されました。

大正11年(1922)当時、この地に旧制浦和高等学校が開校し、当時多くの秀才を集めたと言われています。

公園内のカインキは中国の孔子廟伝来のものです。



▲「寮歌を歌う浦高生」のブロンズ像

MAP D 中山道の松並木

中山道には昭和の初期まで、現在の新浦和橋あたりから廓信寺のあたりにかけ美しい松並木がありました。松の苗木が最初に植え付けられたのは文化元年(1804)のこと。松並木は人々によりその手入れや保存が行われ名所となり、絵ガキにもなりました。



提供:さいたま市立浦和博物館